

令和7年度 園評価書

園番号 54 園名 清水待機児童園

I 経営の重点に関わること 評価段階 (A:よくできている B:概ねできている、C:あまりできていない、D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
愛されてのびのび遊ぶ元気な子	見て！聞いて！触れて！好きな遊びを楽しむ～大好きな場所で大好きな人と一緒に～	・ありのままの姿を受け止めてもらう中で、安心して好きな遊びを十分楽しみ自分の思いを言葉やしぐさで表現している	保育者との信頼関係が深まり、安心して自分から人や物に興味関心を持って関わる姿がある。遊びの中で子どもが面白いと感じたことや不思議に思ったこと等に保育者が共感することでやりたいことや好きな遊びが十分楽しめた。また、自分の思いを言葉やしぐさで表現し受けてもらう心地よい経験をつみ重ねている。	A	A		途中入退園がある為新入児も在園児も不安な気持ちを受け止め、好きなこと(遊び)を見つけ楽しめるよう引き続き丁寧に関わる中で子どもの言葉やしぐさの意味を考え合い子ども理解を深めていく。
		・見る、触れる、探索する等、身近な環境に興味をもって大好きな人と関わりながら遊んでいる	発達や興味に合わせて素材や道具などの教材を用意することで、一人一人が試したり、繰り返して遊んだりする姿が見られた。また、身近な生き物・自然物・栽培等保育者や友達と一緒に日々の遊びに取り入れながら、色、匂い、音、感触など五感を使い楽しむ姿が見られた。	A	A		保育者の願い、子どもの発達の捉え等常に意識し子どものどんな育ちにつながるか考えながら環境を用意する。子どもの興味の変化に合わせて玩具の見直しや量の調整等その都度行っていく。
		・日常生活の中に自然にわらべうたが取り入れられ、子どもと保育者が穏やかで楽しい時間を共有している	わらべうたを子どもとのスキンシップの場、生活場面での切り替えや言葉・発語の促しとして活用していった。シフォンや人形等の道具を使いながらその子にあったリズム、タイミングで行ったり、友達と一緒にやる楽しさを味わったりすることができた。一方、全職員へ定着しにくいところもあり今後も継続して行っていくことが必要。	B	A		会議内で共有した月のわらべうたを有効活用する為動画で録画し見返す事ができるようにする。また、わらべうたは数を絞り保育者も子どもも繰り返して楽しんでいく。

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	・子ども一人一人の発達や個人差に配慮した個別計画による保育を実施している	一人一人の発達や特性、家庭の状況によって月案や保護者支援の方法を考え保育を行った。子どもの姿を読み取り職員間で共有できるよう毎月の会議にて写真を活用しながら育ててほしい姿を明確にし育ちや関わりについて意見交換した。	A	A	・園での様子を細かく見て教えてくれ、安心して預けることができている。担任だけでなくいろいろな先生から日中の様子を伝えてもらいとてもありがたい。	家庭や園の様子を情報共有しあうことができるよう、入園後早い段階で面談等を実施していく(一人1回)。日誌や月の反省は写真を添付したことで子どもの姿を捉えやすくなったので引き続き行っていく。
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	・在園時間の異なる一人一人の子どもの生活リズムを保障している ・子どもの思いに寄り添い、早番や遅番時の保育内容を工夫している	一人一人に合った生活リズム(登降園時間・午睡寝等)、個別対応(アレルギー・発達・行動制限・途中入退園への配慮等)、体制の調整等、その都度職員間で話し合い、心地よく生活できるよう関わっていった。	A	A	・親子ふれあい会で子どもの様子をスライド(写真、動画)を通して知ることができ、温かい雰囲気の中で過ごしていることがわかり安心した。また、わが子の成長を沢山感じられうれしい。	0歳児と2歳児が同じ環境で一緒に遊ぶのは難しい為、早寝室の遊びを仕切る、専用の玩具を用意する、時期に応じて園庭・テラス環境を活用する等、今後も臨機応変に対応していく
	(3)環境を通して行う教育及び保育	・子どもの発達や興味関心に沿った玩具や教材の提供、自然を生かした環境の工夫を行っている	季節や子どもの発達、入退園に応じて玩具やテラス・園庭環境を話し合い決めていった。定期的に環境会議を行い素材、教材、具材、道具について状況にあっているか意見交換や共有をして整えていった。また年齢や発達に見合った手作り玩具を提供できた。	A	A	・ふれあい会でやったわらべうた遊びを家でも試すと子どももとても喜んでた。	園の自然環境が少ない為、園外活動ができる時期は公園等で自然に触れ、五感を刺激し変化を感じる体験を取り入れていく。また遊びが広がるよう自由に使える葉、花、実を意図的に用意する。
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	・避難訓練、不審者訓練を様々な想定で実施している。事故防止のためのヒヤリハットを記録し、職員間で確認と改善策の検討周知をしている	各訓練を実施するにあたり、現在の状況に合わせて訓練方法をアップデートしながら取り組んだ。またヒヤリハットやケガ報告を朝の打ち合わせで周知することで、日常にある危険を職員間で再確認して安全な環境に整えた。	B	A	・ふれあい会の行事を通して、日ごろ子ども達が過ごしている環境の中で、親子同士のコミュニケーションがとれて良かったが、もう少し時間が長いと嬉しかった。	訓練では自身の役割遂行や不在の職員がいる場合の役割分担について等、避難に必要な情報を確認し対応できるようにする。訓練後の課題についても毎回、職員間で丁寧に周知徹底する。
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	・年齢発達に応じた基本的な生活習慣(食事、排泄、清潔、睡眠等)が身につくよう家庭と連携しながら一人一人に合わせた援助をしている ・手洗いなど保育者が一緒に行ききれいになった心地良さを伝えている	一人一人の食事の形状や量、体調等について連絡ノートや登園時に確認し担任間、調理員、家庭と情報を共有しながらその様子に合わせた園生活のリズムを調整していった。手洗い、鼻をかむ、おむつ替え、着替え等「きれいになったね」「気持ちがいいね」と清潔になる気持ち良さを伝えた。	A	A		担任・調理員・家庭と連携し離乳食についての情報共有、献立会議等丁寧な対応を引き続き行っていく。食事中の子どもの姿、クラスの様子等ボードを利用して保護者にも見てもらう機会を作り、調理員も子どもの食べる様子を積極的に見に行く
	4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	・個々の発達や特性を理解し、援助方法を職員間で共有し保育している ・必要に応じ専門機関との連携を図っている	発達や特性について理解していく為、演習を取り入れながら園内研修を実施。演習で出し合ったアイデアを保育に活かすこともできた。またクールダウンの部屋を設置したことで、様々な場面で活用できた。子ども理解・保護者支援対応についてソーシャルワーカー面談や専門機関との会議に参加し情報共有を行いアドバイスを取り入れながら自園なりに支援体制作りを行った。	A	A	
5 組織運営	(1)組織体制の充実	・一人一人が自分の役割に責任をもち協力して園運営が進められている	分掌ごと進捗状況を毎月報告しあうことで職員間で共有でき協力体制ができていた。教材の在庫管理等周知徹底されない部分もあった為、再度見直しながら行った。	B	A		自分の得意分野で力が発揮できるよう役割分担を見直す。また分掌内容が停滞気味になりやすいところは、悩みや課題を出し合いサポートしあえる体制をつくる。
6 研修	(1)研修体制の充実	・研修テーマ「大好きを見つけよう～安心して遊ぶ場所を十分楽しむ環境づくり～」を共通理解し、手立ての検証を行い改善しながら保育が進められている	月ごと、遊びについての話し合いや環境図の掲示を行い園全体で楽しんでいる遊びが分かるようにした。公開保育では研修の目的を明確にし視点に沿った場面の写真を見て意見交換することで子ども理解に繋がった。教材・具材づくりの園内研修を行い製作過程や見立ての領域について学べた。子どもの大好きを見つけそれに伴った教材づくりを行い、思いを繋げながら保育していった。	A	A		三つの視点や五領域を通して一人一人にどんな力が育っているのか共有しあう振り返りを今後も行って行く。職員一人一人にわらべうた遊びが定着していくよう年間を通して親しんでいく数を再検討していく。子どもから「やって」との発信にタイミングよく応えられるようにする。
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	・子どもの発達や興味関心に沿った、好きな遊びを十分楽しめる環境が構成されている	毎月環境会議を行い、共有スペースの使い方や活用の仕方を話し合った。今年度はテラスを活用し、季節ごと好きな遊びを楽しめるよう環境を整えた。廊下に絵本コーナー、わらべうた、サーキット遊びを出来るスペースを作り保育者とゆっくりと過ごせるようにした。	A	A		子どもの成長に伴いおもちゃの見直しを行ったり、人数に合わせた数も配慮する。また環境ツアーを行い実際の場を見てみんなでアイデアを出し合う。わらべうたは楽譜の他にもタブレットを活用しながら歌や動きを覚えより身近なものにしていく
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	・保護者と保育者が子どもの育ちを共有し成長を喜んだり伸ばしたいところについて共に援助したりしていく	保護者の立場に立って一緒に育ちを喜び、子どもの可愛い表情、エピソードを伝え合う関係性を大事にしていった。写真や動画を活用しコドモの連絡ノートや親子ふれあい会を通して日々の子どもの姿や成長を共有し合うことができ、保育理解につながった。園内研修の様子も廊下に掲示し保護者にも発信した。	A	A		正規職員を中心にコドモ機能を学び、他の職員にも伝え習得できるようにする。必要に応じ保護者からの相談・悩みごとに対応したり、子どもの育ちに関する情報(クラスだより、ドキュメンテーション)を提供したりして今後も支援していく。
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	・近隣園の園児との交流の機会を設けている ・公開保育を実施すると共に他園の公開保育に参加し学びを深めている	他園の公開保育に積極的に参加し、環境構成や子どもの捉え方について等学び、スキルアップにつなげた。待機3カ園で研修を進めており、お互いの公開保育に参加し合ったり、乳児保育のあり方や事後研修の進め方、待機ならではの悩み等共有したりしながら、検討する機会を設けた。	B	A		2歳児は、年齢到達によって他園に転園していくことを念頭におき、近隣園との交流を深めていく。(飯田南・辻こども園との交流を企画する)0・1歳児の交流は難しいが近隣園へ外向き挨拶を交わすことを楽しんでいく。
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	・待機児童解消のため、積極的な受け入れを行っている ・近隣の方や散歩時に出会う方に挨拶や会話をして交流を重ねている	入退園がある中で在園児も新入児も安定した気持ちで過ごせるような環境・関係作りを心がけた。園見学、入園面接、オリエンテーション、誰通の利用に関する事等、職員で連携し丁寧に進めた。後半は3回程、辻こども園との交流を楽しみ、辻こども園や近くの公園と一緒に遊ぶことができた。火災時の避難場所として東高校の教室を提供して頂けることが再確認できた。	A	A		近隣園や地域との交流が少ないことが課題であったが後半、近隣校の辻小学校、国際高校とつながりを持つことができたので、今後散歩に行ったり、交流したりすることを積み重ねていけるようにする。